

# 令和3年度 全国学力・学習状況調査の結果

京都市立北野中学校

さる5月27日に、中学校3年生を対象に、文部科学省による「全国学力・学習状況調査」が実施されました。その結果がまとめましたので、ご報告いたします。本調査は、「国語」「数学」「生徒質問紙」からなり、学力だけでなく生活習慣との関係なども調査されました。

## ■調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

## ■本市の調査結果(各教科の平均正答率)

	国語	数学
全国(公立)	64.6	57.2
京都府	65	57
京都市	65	58

※「京都府」の値は、「京都市を含む」結果です。

※各都道府県、政令指定都市の令和3年度の結果は、小数点以下の公表をしていません

上の表は、令和3年度の全国学力・学習状況調査における全国・京都府・京都市の平均正答率を表しています。京都市は、国語・数学ともに全国平均正答率を少しだけ上回っていることがわかります。本校におきましては、国語・数学のすべての領域・評価の観点・問題の形式において、京都市の結果を若干上回る結果となりました。

以下に、各教科や生徒質問紙の内容を詳しく分析した結果を紹介いたします。お子様のアドバイスにもぜひご活用ください。

## 【国語】

令和元年(平成31年)度の調査から、国語はA問題(知識に関する問題)、B問題(活用に関する問題)の括りがなくなり、知識・活用を一体的に問う問題になった。評価の観点は「国語への関心、意欲、態度」「話す・聞く能力」「書く能力」「読む能力」「言語についての知識・理解・技能」であり、問題の形式は「選択式」「短答式」「記述式」である。本校は、平均正答数で見るといわゆる「中の上」クラスの生徒が多かったが、正答数が少ない生徒の割合は全国平均と変わらず、これは、学年全体の国語の学力が高いのではなく、国語が苦手な生徒も應分に存在することを示しているといえる。実際、漢字の読み取りが不正答であった生徒の比率は、全国平均と変わらない。また、すべての領域・評価の観点においては全国および・京都府平均よりもわずかに高いが、問題の形式においては特に「記述式」の問題で大きく上回る結果となった。日常の作文指導で条件に合わせることを徹底したことが奏功したと捉えられる。

### 【設問別分析】

- ・「話し合い」に関する設問での正答率が京都府平均よりも高く、話し合いを適切に進めるにあたっての心配りについては、理解度が高い傾向にあると言える。
- ・発言の根拠が本文のどこにあるかを問う問題の誤答が多かった。選択肢も類似しているので、丁寧に読んで理解する姿勢を育てる必要があると感じさせられた。また、全体正答率の高低にかかわらず、「引用」という条件を満たしていない生徒が多かった。日常の指導のなかで「自分の判断は、教科書本文のどこに基づくものなのか」を問う設問を充実させる必要がある。

### 【生徒質問紙の項目】

「当てはまる・どちらかといえば当てはまる」生徒	北野中学校	京都府	全国
国語の勉強は好きですか？	59.0%	55.7%	60.8%
国語の勉強は大切だと思いますか？	85.5%	91.1%	91.6%
国語の授業で学習したことは、将来社会に出たときに役に立つと思いますか？	85.5%	88.8%	88.7%
国語の授業の内容はよく分かりますか？	83.1%	78.2%	80.1%

(「当てはまる」または「どちらかといえば当てはまる」と答えた生徒)

この結果から、国語・国語の授業に対するイメージは全国・京都府とさほど変わりないが、「大切か」「役に立つか」はやや低いという点から、日常のどの場面で役立つかを想起させる必要があると考える。なお、その他の設問の回答結果から、「国語の授業において、目的に応じた表現活動や自分の考えが充実できている」と感じている生徒が多いことがわかった。つまり、授業には前向きに取り組んでいると解釈することができる。

### 【今後の取組についてのまとめ】

- ①「条件に合わせて作文をする取組」は、今後も継続する。
- ②丁寧に読み、丁寧に答えさせる授業を目指し、教科書の本文のどこを見てどう判断しているかを常に問いかけ、全体授業で切磋琢磨させていく。
- ③国語を苦手とする生徒のために、小学校で学んだ漢字の復習を充実させる。
- ④毎時の国語の学習活動が、人生のどの場面で役立つかを想起させながら授業を展開する。

## 【数学】

全体的には、どの領域も、どの観点においても全国平均より正答率は上回っている。記述式の問題の正答率が低く、無回答率も高かった。全国平均より低い問題は、図形領域の錯角が等しくなることについて根拠となる2直線の位置関係を記号で表す問題、資料の活用の領域の相対度数を用いる問題、数量領域での4つの数の和が2つの数の和の2倍であることを説明する問題、資料の活用の領域でのグラフの特徴を基に説明する問題だった。授業で説明する問題を多く扱っていく必要がある。

### [生徒質問紙の項目]

	北野中学校	京都府	全国
数学の勉強は好きですか？	59%	56.6%	59.1%
数学の勉強は大切だと思いますか？	77.1%	82.8%	84.1%
数学の授業で学習したことは、将来社会に出たときに役に立つと思いますか？	71.1%	73.1%	74.6%
数学の授業の内容はよく分かりますか？	83.2%	74.3%	74.6%

(「当てはまる」または「どちらかといえば当てはまる」と答えた生徒)

数学の勉強は好きではないが、数学の勉強は大切であり、将来社会に出たときに役立つと思っている生徒が多いが全国に比べると少ない。興味があって意欲的に数学を勉強しようと思っている生徒が少ないということである。そのことが、日常生活の中の事象をとりあげた問題で数学的な解釈ができないことがあるのではないかと思われる。できる喜びから興味を持つということだけではなく、数学の良さ・生活に関連づけた題材を考え、授業の中で取り入れていくことで興味を持つことを考えていきたい。また、さらに授業改善を行い、思考過程を重視した授業を展開していきたい。

## 【生徒質問紙】

「将来の夢や目標を持っていますか。」「学校に行くのは楽しいと思う。」と言う設問に「当てはまる」と答えた生徒は、それぞれ京都府平均よりも 8 ポイント程度高く、自分の未来に向かって充実した学校生活を送っているという自覚をもつ生徒が多い傾向にあります。

また、「友達と協力すること」や「自分と違う意見について考えること」を楽しいと捉える生徒が多く、「自分の考えをまとめたり、思いや考えをもとに新しいものを作り出したりする活動」が好きな生徒も多く(全国平均よりも 15.2%高い)，これは、総合的な学習の時間や道徳の授業での対話などに前向きに取り組める成果ではないかと考えられます。

しかし、「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか。」という設問は、全国平均よりも 13.4%低く、夢に向かうための家庭学習はけっして計画的には行えていない現状も見えてきました。また、「携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家人と約束を守っていますか。」という設問に、「きちんと守っている」生徒は全国平均 10.4%低く、「普段(月曜日から金曜日)、1 日あたりどれくらいの時間、テレビゲーム(コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ってゲーム)をしますか。」という設問に対し、「4 時間以上」および「3 時間以上、4 時間より少ない」生徒は全国平均よりも 11.1%多い回答となりました。ここから、携帯電話やスマートフォン、ゲームについて、子どもたちがルールを守り、時間を決めて使用するよう、学校からも指導するとともに、ご家庭でのより一層の働きかけをしていただく必要性が感じられます。

特に SNS においては、一度画像や発言をアップしてしまうと、どんなに閉鎖したコミュニティであつたとしても、そこにアクセスする人間から別のコミュニティに容易に漏れて拡散する可能性が多分にあります。この調査をきっかけに、お子たちが時間やルールを決めて利用できるよう、各ご家庭でもう一度しっかりとお話し下さい。そして、各ご家庭で厳に管理していただきますとともに、家庭学習の様子もつぶさにご覧いただきますよう、どうぞよろしくお願ひいたします。